

# 地域包括ケアに活かせる ワークショップ・デザイン

～参加型の学びの場の作り方～

## 研修会報告

令和元(2019)年 12 月 7 日 (土) 午後 1 時より、

株式会社エンパブリック 代表取締役 ひろいしたくじ 広石拓司さんをお迎えし、  
研修会を開催しました。

参加者 31 名、7 つのグループに分かれ、参加型の学びの場の作り方  
について講義とワークを通じて学びました。



### 研修会チェックポイント！



#### 【ワークショップの必要条件】

- ◆参加者の潜在的な力・可能性(やる気)に期待する
- ◆参加者が自分の力・可能性を体験できる
- ◆安心して打ち込める → 安心できる場なら自ら発言・参加できる！
- ◆相互作用を通して「自分の答」に気づく → 他者を通して自分を理解できる



#### 【ファシリテーターは、守り立て役！】

“守り立てる”とは、安心感、出番のある場をつくり、運営する技術。場を守り立てることで、参加者が「話したい」「一緒につくりたい」「分かち合いたい」と考えていることを表に出せるように環境を整える。

#### 【対話の重要性】

お互いの意見を聴きあうことで気づき、相互理解を深める。発言のいいところを見つけ合う！  
アドバイスは禁止！！

#### 参加者の声 (アンケートより抜粋)



- 話せる(と思える)場をつくる必要性を学んだ
- 会議の中で振り返りの時間を設定することを実践していきたい
- 聴き合う姿勢と、語りやすい準備を何回も重ねていきたい
- もっとファシリやワークショップについて学びたい

